

## 刑事司法と福祉

問題 58 犯罪の成立要件と責任能力に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 正当行為、正当防衛、あるいは緊急避難が認められた場合には、有責性がないものとして、無罪になる。
- 2 正当防衛とは、正当な侵害に対して、自己または他人の権利を防衛するため、やむを得ずにした行為のことをいう。
- 3 弁識能力及び制御能力の両方またはいずれかが欠けていれば、心神喪失となり、またどちらかでも能力が著しく減退していれば心神耗弱となる。
- 4 心神喪失の場合には、刑法上の犯罪が成立せずに無罪となり、心神耗弱の場合には、刑の言渡しが猶予される。
- 5 16歳未満の者の行為については、一律に責任能力に欠けるものとされており、犯罪は成立しない。

問題 59 事例を読んで、次のうち、この手続きを表す名称として、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Aさん(30歳)は、自動車の大幅な速度超過により、道路交通法違反の罪で検挙された。Aさんの事件は、簡易裁判所が、検察官の請求に基づき、命令により100万円以下の罰金または科料を科することができる手続きで処理されることになった。この手続きがとられるに当たって、Aさんは、被疑者として異議がないことを示していた。

- 1 起訴猶予
- 2 微罪処分
- 3 簡易送致手続
- 4 交通反則通告制度
- 5 略式手続

問題 60 事例を読んで、刑の全部執行猶予中の保護観察に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Aさん(30歳)は、覚醒剤の自己使用により検挙され、懲役1年執行猶予3年保護観察付の判決が確定し、保護観察中である。Aさんには「薬物再乱用防止プログラムを受けること」という特別遵守事項が設定されている。また、Aさんには担当保護司が指名されている。

- 1 Aさんは、一般遵守事項に違反しても、執行猶予が取り消されることはない。
- 2 Aさんは、簡易薬物検出検査を受けなければならない。
- 3 Aさんに対する不良措置として、保護観察の期間の延長がある。
- 4 Aさんの担当保護司は、Aさんの補導援護はできるが指導監督はできない。
- 5 Aさんが特別遵守事項に違反した場合には、保護観察所長が執行猶予を取り消す。

問題 61 更生保護に関わる人または組織に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 地方更生保護委員会の事務局及び保護観察所に保護観察官を置くこととされている。
- 2 保護司が備える条件の一つとして「人格及び行動について、社会的信望を有すること」がある。
- 3 保護司活動の拠点として、各都道府県に1か所ずつ更生保護サポートセンターが設置された。
- 4 更生保護法人は、厚生労働大臣の許可を受けて設立される。
- 5 更生保護女性会は、更生保護法の制定に伴い設立された。

問題 62 事例を読んで、「医療観察法」に基づく地域処遇に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Aさん(30歳)は「医療観察法」に基づく入院決定を受け、指定入院医療機関に入院していたが、その後、退院許可の決定を受け、現在は、地域処遇を受けて指定通院医療機関に通院している。

- 1 Aさんの精神保健観察は、保護観察所の保護観察官が担当する。
- 2 Aさんが「精神保健福祉法」に基づく医療保護入院となることはない。
- 3 Aさんの地域処遇が3年を超えて実施されることはない。
- 4 Aさんの地域処遇の期間は、保護観察所長の決定により短縮することがある。
- 5 Aさんの処遇の実施計画は、保護観察所長が関係機関と協議して定める。

(注) 1 「医療観察法」とは、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。

2 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

問題 63 2004年(平成16年)に制定された犯罪被害者等基本法に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 同法における犯罪被害者等とは、犯罪等により害を被った者及び遺族を除いた家族をいう。
- 2 同法の目的の一つに、再犯の防止と犯罪による被害を受けることの防止がある。
- 3 同法に基づき、ストーカー行為を規制するための処罰が整備された。
- 4 同法の基本的施策の一つに、損害賠償の請求についての援助がある。
- 5 同法に基づき、政府は犯罪被害者等基本計画を定めなければならない。